

オフィシャルイベント 31th ATP Awards
 TV Grand Prix

名称：第31回ATP賞
 会期：2014年11月27日（木）
 会場：六本木ハリウッドホール
 主催：（一社）全日本テレビ番組製作社連盟
 共催：
 後援：総務省／経済産業省／国土交通省観光庁／日本放送協会／
 （一社）日本民間放送連盟
 対象：製作会社／放送事業者／関係諸団体
 来場者数：450人

■内容

- 創り手が選ぶ創り手のための賞『第31回ATP賞』のグランプリ発表と受賞式典。
- 安藤友裕総務省情報流通行政局長、初井勝人NHK会長、井上弘民放連会長、重延浩JAPAN国際コンテンツフェスティバル実行副委員長よりご祝辞を頂戴した。
- 146本に及ぶ今年度応募作品の中から、ATP会員社125社、審査員による投票の結果、互いに38票を獲得したドキュメンタリー部門『憎しみとゆるし マニラ市街戦 その後』（NHKエデュケーショナル、椿プロ／NHK BS1）、情報・バラエティ部門『和風総本家』世界で見つけた Made in Japan 第12弾（仁プロデュース／テレビ大阪）の2作品がATP史上初のグランプリ同時受賞となった。
 ※2014年度の受賞作品一覧については、第31回ATP賞ホームページ参照
http://www.atp.or.jp/award/award_031.html

～最優秀賞審査講評～

【ドラマ部門】

◆連続ドラマW「私という運命について」 【26票】

バブル崩壊後、9.11テロ、地下鉄サリン事件、新潟県中越地震など様々な出来事の中を生き抜く、女性総合職第1号の主人公の半生を、純愛物語として描いた「激動の中の女の選択を、見詰め続けたドラマ」。「選べなかった未来などない。運命は自らの手で切り開くのだ」というメッセージも力強く伝わる。16mm撮影による、新潟・長岡の美しい雪景色やマレーシアの熱帯色を背景に、永作博美さんや宮本信子さんなど演技陣も好演。感動的な秀作となった。

【ドキュメンタリー部門】

◆BS1スペシャル「憎しみとゆるし マニラ市街戦 その後」 【38票】

妻と子供を殺されたキノ大統領が日本人戦犯を恩赦するまでの葛藤を縦軸に、戦後の国際情勢の視点も織り交ぜられた力作だ。日本兵への恨みを抱き続けるフィリピン人、戦犯となった日本人や家族、緻密な取材と証言者、資料の発掘、それらが丹念に構成され心が揺さぶられる作品に仕上がっている。時代の記録に留まらず、人として見据えるべきものを問いかけ、人間の憎しみの根深さと、許すという苦しみに向き合う強さを教えてくれた。

【情報・バラエティ部門】

◆「和風総本家」世界で見つけた Made in Japan 第12弾 【38票】

誰も知らない鋸が、ヴァイオリンの名器ストラディバリウスの修復に使われている。よくぞこのネタを見つけたという感嘆の気持ちと共に、お互いの様子を本人達に見せることで、たった一つの道具を通し「使う人と作る人」の関係を映し出す見せ方に魅了された。テレビ制作者として、丁寧な番組の作り方とお互いに見せるという演出の“発明”に脱帽。「世界の中のニッポン」という企画自体は数多あるが、その中で断トツに面白い番組。

